

受領No.1566

製造や販売管理の技術革新がもたらす製品サイクルの短期化とデフレの関係 —大規模な製品価格データを用いた検証—

代表研究者 寺西 勇生 慶應義塾大学 商学部 教授
共同研究者 Mei Dong メルボルン大学 経済学部 教授

Short Product Cycles by Innovations in Production and Sales Management and Japanese Deflation

Representative Yuki Teranishi, Keio University, Faculty of Business and Commerce, Professor
Collaborator Mei Dong, University of Melbourne, Department of Economics, Professor

研究概要

科学技術の進歩、特に通信端末や大規模なデータの蓄積技術の発展によって、これまでは利用できなかったような微細なデータが研究で利用可能となっている。特に、経済学の分野では、個別製品の価格データについてのカバレッジの拡大と長期に渡る蓄積から、1つ1つは経済にほとんど影響がない個別製品の価格の積みあげが日本経済全体のマクロ・レベルの価格データになるという、研究の在り方についての大きな変化が今まさに起こっている。

こうした背景を踏まえ、以下の3つの目的を設定して研究を行うこととする。

- (1) 個別製品レベルの大規模マイクロ・データから観察される価格設定についての新事実を提示する。
- (2) 大規模マイクロ・データによって観察される製品サイクルと価格サイクルを取り込んだマクロ・レベルの価格モデルを用いて、日本における「デフレ」と「インフレ」の真因を解明する。
- (3) 日本のデフレが製造や販売管理の技術的発展によって引き起こされている点を明らかにする。

研究を通じて、科学技術の発展が生み出す思わぬ結果が私たちの生活に如何に大きな影響を与えているのかを明らかにし、これを社会に還元していく。